愛知県立一色高校学校創立70周年度（2020～2022年）
SDGsで照射する教育活動のグランドデザイン

校 是

各ステージの学習を貫く構え
（非認知能力）

気力　持続　謙虚

Ⅲ 地域ステージ
公演活動・ボランティア活動・
中高交流活動×SDGs

SDGsシートでリフレクション

往還する空間軸・思考の拡散と収縮

Ⅱ 学校ステージ
教科学習・生徒会活動・
部活動×SDGs

往還する空間軸・思考の拡散と収縮

SDGsシートでリフレクション

Ⅰ HRステージ
HR活動×SDGs
HRで自己・相互リフレクト

●SDGsの視点を踏まえたⅠ～Ⅲの学習過程を通して自己の在り方・生き方を探究し、キャリア設計できる力＝キャリアプランニング力（認知能力）を育成する。
●キャリアプランニング力の育成の全過程で涵養する生きる構えが３つの校是である。

評価の着眼点①

各ステージで、SDGsシートを活用し、自己評価・相互評価して変容を見取る着眼点＜形成的評価＞
○「私」の在り方
（主体的なキャリア設計）
○「私たち」の在り方
（守るべき価値の理解）

一色高×SDGs

評価の着眼点②

キャリアプランニング力の構成要素＜総括的評価＞
○知識・理解
○情報の収集・整理(選別)・読
解等処理に関わる能力
○対話力
○発信力

A

2021年度 創立70周年 一色高等学校（全定共通）の取組

❶人類の課題（2030年 国連SDGs）を自らの足元から捉える教育活動の全面展開（一色高校版SDGs）とその発信
❷ICTを活用した教育活動推進ための校内体制の樹立と新教育課程を踏まえた評価に必要な職能開発
❸「対話」活動に着目したキャリアプランニング力の育成と学校を支える生徒・職員としての自覚の高揚

中間Goal
R3/11/20
成果発表
(公開)

創立70周年記念事業 先輩から後輩に受け継ぐ
～愛する地域の未来へ向けた私たちの提言～

❶の枠組み

A) 2020年度のプレ企画の改善、SDGｓ委員の活用
B) 6主体(HR・委員会・1/2年総探・生D・情ビ)の学習活動の充実
C) 一色高校×教科SDGs×ICTの観点からの授業開発と公開研修
D)中学校とその保護者への多様な情報提供と情報収集

実現の手立て

A)生徒会主任が学年主任会に所属し全体を総括
B) C)SDGsシールをHR活動・生徒会・教科学習において有効活用、吉良高とのICT授業合同研修会を開催
D) 「先輩が高校の魅力を語る会」に生徒を派遣、運営審議会委員による中学校訪問、学外者へ39メールで教育活動を発信

❷の枠組み

A) 時代を反映した校内分掌組織の再編（ICT推委と新生徒指導体制を創設）
B) On Lineを視野に入れたICTの活用方法に関わる校内研修
C) 評価の段階的・弾力的運用により生徒の学習を動機付けるプロセスを工夫とその試行

実現の手立て

A)「情報図書部」*を新設し進路・教務・教科会との連携強化、生D科としての生徒指導体制の樹立
B)吉良高とのICT授業合同研修会に先立ち、ICT校内(ロイロ)研修会を開催
C)R2年度3月評価モデル事例の提示、R3年4月の教科会へ依頼、5月に各教科の評価シート策定

❸の枠組み

A)HRリーダーとしての素養の育成
B)集団を対象にした「対話」活動によるキャリア啓発
C)自己の在り方を客観視できるリフレクションの強化(SDGs・WS活用)
D) 地域の未来につなげるための教育活動の実践

実現の手立て

A)各学年正副室長会を管理職が主催し素養教育実施
B)個人面接とともに小集団による「対話」活動を奨励
C)全校・学年集会でのリフレクションシートの活用
D) 一色高×吉良高との部対抗戦・ICT活用合同授業研修会実施、進学希望者等個別最適な特別の支援体制の充実

B

2021年度 創立70周年記念事業 一色高校版SDGsに関する取組
～SDGsワークシートを活用した教育活動～

ねらい

「人類の必修科目」としてのSDGs（持続可能性）に関わる諸課題を、HR活動・教科学習・学校／家庭生活・地域活動など自己の生活の足元から見つめ、それぞれが関連し合っていることを視覚化し、一色高校版SDGsの取組を充実する。

SDGsシール・ワークシートの作成

●ねらい

SDGs17の課題を視覚化するシールとA3判両面刷WSを活用することで、教科横断的な年間の一高版SDGsの取組同士のつながりや意味をつかむ。

●シール・WSの作成

・同窓会の支援を受け、創立70周年度に当たるR3年度以降の在校生が3か年活用できるように必要部数を発注する。(17のシールを1セットとし、3000セットを発注)

・HR活動、総合学習、教科学習、部活動、地域活動等で学んだ年間の一高版SDGsの取組を視覚化するWSを作成する。

・SDGs17 の課題と関連する一高版SDGsの取組をWSに記入し、該当の個所にシールを貼って整理する。学期ごとに振り返り（評価）を行い、SDGsの取組の多面性をつかむ。

一高版SDGsワークシートの活用のイメージ

【WS表面】

❶一高版SDGsに関わるHRの取組・総探(課研)の取組・教科学習の内容・ボランティア・生徒会活動・地域活動等から、SDGs17の課題と深く関連していると生徒が考えた学習内容について、該当シールを添付し簡潔にメモする。例えば3年生では、進学・就職先に特化してWSを活用するなど、学年会ごとに学年固有の課題を設定して、整理するのも有効である。WS裏面の振り返りが有効に行えるように各自が必ずメモする

❷添付したシールと学んだ内容とがどうかかわっているかについては、各生徒の考え方を基本的には尊重して、必要なアドバイスをする。

❸すべてのシールを添付することが目的ではない。次年度に引き継がれて良い。17の課題と多様な学習内容を関連付け、各シールが意味する多面的な側面を生徒が視覚的に把握できようにすることが大切である。

❹指導の過程において、意識的・意図的に、SDGsの課題との関りについて教師がその都度触れることが必要がある。

❺多様な学習場面と関連付ける作業は、HRごとに、年間を通して行うので、学年会では、HRの取組状況を共有し、支援の方法を協議する機会を設けることが必要である。

❻各教科会においても、SDGsと関連付けることができる教科書などの教材について協議し、それらの内容が定期考査にも反映できるようにする。

【WS裏面】

〇上記❶のメモに基づき、HRごとに、各学期末に振り返りを行う。振り返りは、クラス・学校・地域の視点で、最後にそれらを総括した振り返りを整理する。振り返りとは、事前・事後の変化や新たな気づきをまとめることであると生徒に説明し、最後には、自己評価と他者評価を行う。他者評価では、級友にコメントを記入してもらう。

年度の終わりには、優秀作を学年ごとに選出し、3学期終業式で表彰する。終わりには、生徒が年間を振り返り、担任がABC評価する。

創立70周年記念事業のために同窓会からの支援で作成した「SDGsシール」

〇国連事務局の規定に基づき、シール化した。
〇生徒1人1シート、3か年間取り組み、成果の検証をPOST創立70周年の課題とする。

一色高校版 SDGsシート

年　　組　　番

氏名

16 平和と公正をすべての人に

5／○ 修学旅行で沖縄戦の被害を知る

8／○ 夏季課題で戦争について調べた

17 パートナーシップで目標を達成しよう

1 貧困をなくそう

7／○ 現社でフェアトレードを学ぶ

2 飢餓をゼロに

10／○ 生徒会でフードロスの調査をした

3 すべての人に健康と福祉を

15 陸の豊かさも守ろう

2／○ 数学で高齢化率の変化についてグラフ化

6／○ 佐久島へアマモボランティアへ参加

14 海の豊かさを守ろう

4 質の高い教育をみんなに

10／○ 英語で温暖化の英文を読む

13 気候変動に具体的な対策を

12／○ 国語で性的マイノリティに関する評論を読む

5 ジェンダー平等を実現しよう

12 つくる責任つかう責任

10／○ 理科で水質について実験

6 安全な水とトイレを世界中に

1／○ 理科地理で人新世という言葉を教わった。

10／○総探で働くことの意義について討論

8／○ 家庭クラブ活動で節電の効果を調べた

1学期 クラスで節電について考えた

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

9／○ 総探で西尾市政の現状と課題を整理

11 住み続けられるまちづくりを

7／○ 現社でフェアトレードを学ぶ

10 人や国の不平等をなくそう

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

8 働きがいも経済成長も

SDGsワークシート（振り返り面）

	クラスでの取組	学校での取組	地域での取組	１学期の振り返り	自己評価　a　b　c 他者評価　a　b　c
１学期	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- （　　）

	クラスでの取組	学校での取組	地域での取組	２学期の振り返り	自己評価　a　b　c 他者評価　a　b　c
２学期	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- （　　）

	クラスでの取組	学校での取組	地域での取組	３学期の振り返り	自己評価　a　b　c 他者評価　a　b　c
３学期	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- ----------	---------- ---------- ---------- （　　）

１年間の振り返り	---------- ---------- ---------- ---------- 担任評価　A　B　C

SDGsワークシート（振り返り面）の使い方

・シール面のメモをもとに、クラスでの取組（ＨＲ目標等）、学校での取組（授業・行事・部活動・生徒会活動等）、地域での取組（ボランティア、他校との交流、イベント、家庭等）の内容を整理してまとめましょう。

・各学期の最後と１年の終わりには、振り返った内容を書きましょう。
振り返りとは、取組の前と後で変わったこと、新たに見つけたことなどをまとめる作業です。

・学期ごとに、自己評価と他者評価をａ、ｂ、ｃの３段階で行います。他者評価はクラスメートにお願いし、３段階評価だけでなく、コメントを記入してもらってください。コメントを書いた人の名前を（　）に記入してもらってください。

C

2021年度　新設「情報図書部」の役割と主たる業務

設立趣旨とその役割

〇学校規模の縮小によるマンパワーの量的縮減に備え、校内分掌業務の効率的な遂行と焦点化を一層進め、時代の変化や諸課題に対応するために必要な業務を再編する。
〇上記の目的を担う分掌として、「情報図書部」を新設し、学校のICT化推進のために必要な環境整備や図書情報に関わる事項を総括する。

主たる業務

〇進学・就職に関わる調査書や成績会議資料・生徒指導要録作成に関わるシステム*の運用 とマニュアルの作成・管理、図書情報の購入管理と生徒への読書啓発活動
〇法定研修・教育実習業務、ネットワーク・タブレット端末・ルーターの設定管理、BYOD校内基準の策定、授業におけるICT活用にかかる校内研修（ロイロノート）、他学校との合同研修事業、外部への公開授業（発表会）の企画運営、担当者指名業務として大学予約以外の奨学金業務を設定

システム*とは、現状では、「メソフィア」を指す。

留意事項

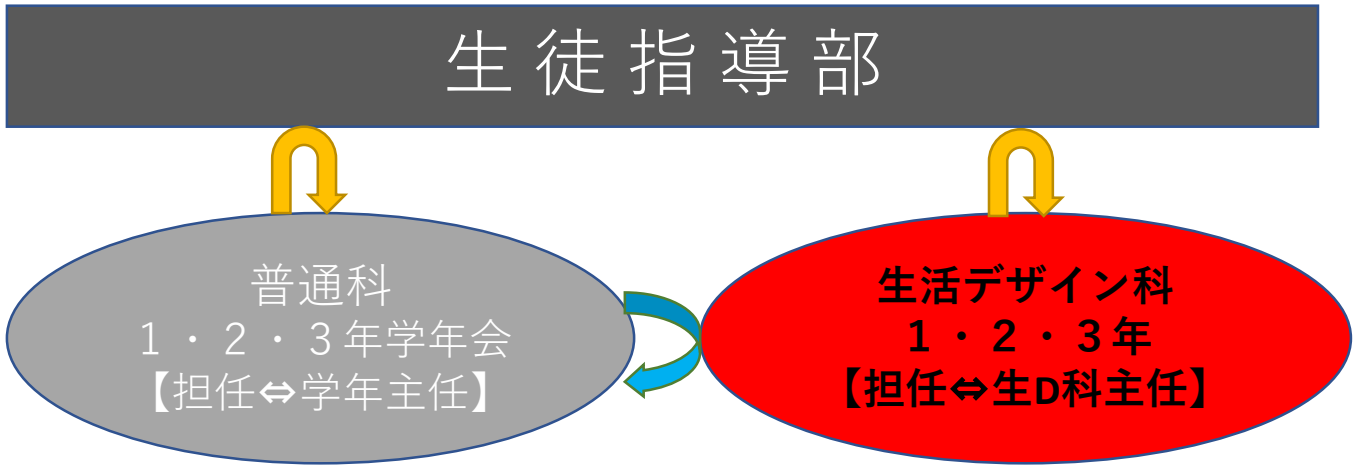
〇「情報図書部」との連携が特に求められる進路指導部・教務部については、年度当初に連携職員を各1名分掌内に任命しておく。
〇調査書の作成・点検・発行に関わる業務、成績処理・点検・成績会議資料の作成の流れ及び職員への周知に関する業務は、従来通り、進路指導部・教務部・学年会等関係組織がこれを担う。
〇合格者説明会に関する業務は、令和3年度については、引き続き情報図書部が所管する。
〇学校の諸活動の記録（「とこしえ」）については、総務部に移管する。

D

2021年度　生徒指導の新ルートの設定

ねらい

〇生活デザイン科の特徴を生かせる生徒指導のルートを新たに作ることで、学習活動の質を高め、職業人としての資質・能力の育成に寄与する。



留意事項

〇生徒指導体制における生活デザイン科及び科主任の役割を明確にすることで、家庭科が育成を目指す生徒像を踏まえた指導の実効性を一層高める。
〇全学共通指導については、従来通り学年会が主催する。
〇この新体制の成功の鍵は、生徒指導主事を起点とした学年主任・生D科主任の情報連携を密にすることにある。

E

2021年度　一色高校 評価モデル　(数学科の事例)

A.数学としての評価の捉え方

○「知識・技能」，「思考・判断・表現」について
それぞれ考査・小テストの得点に応じて評価
○「主体的に学習に取り組む態度」については
中期のスパンで取組の改善（変容）を評価

→

「主体的に学習に取り組む態度」については，授業への取り組み方，ノートの記述，考査課題の取組状況など複数の素材から多面的に評価する。評価全体の３割を上限とする。

B.単元ごとの特性による評価(数学Ⅱの場合を想定)

数学Ⅱの学習内容を以下のように分けて考察する。
○1学期：式と証明・複素数と方程式・図形と方程式(前半)
○2学期：図形と方程式(後半)、三角・指数・対数関数
○3学期：微分法と積分法

→

○1学期は「証明」があり，記述をする力をつけるようワークシートを活用し，その内容を評価する。
○2学期は「軌跡」や「三角関数の方程式・不等式」など，数学的な思考力・判断力が問われる単元が多く，考査の出題にて評価する。
○3学期で学ぶ「微分と積分」は計算力が問われるため，小テストを増やし，その取り組みを評価する。

C.学期毎の特性を踏まえた評価

○学期内で考査が2回ある1・2学期と1回しかない3学期では、それぞれの学期の評価に組み入れる各考査得点の比率は工夫する。
○長期休暇課題(GW・夏休み・冬休み)の取組状況を評価に確実に組み入れる。

→

○1・2学期については中間・期末までの授業時数の差が大きいため，学期内の考査全体に対する中間・期末の比率を２：３程度とする。
○長期休暇課題の評価については，その取組が評価に十分に反映されるよう配慮する。特に夏休み課題についてはその割合を大きくする。